

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 1F)

事業所番号	0692600034		
法人名	(株)ジェイパック		
事業所名	もも太郎さん高島		
所在地	山形県東置賜郡高島町大字深沼191-3		
自己評価作成日	令和 4 年 12 月 28 日	開設年月日	平成 22 年 11 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は田園風景に囲まれ四季折々の風景が感じられる施設です。感染症という縛りにあっても、利用者様一人ひとりが馴染みの生活できるよう支援させていただいております。今まで生活されてこられた環境を考慮し「利用者様が笑顔になれる支援」を、目指し取り組んでいる施設です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 5年 1月 19日	評価結果決定日	令和 5年 2月 3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設14年目を迎え、当初から関わっている管理者は時間をかけて歩みを進め地元へ根付いたグループホームとして存在しています。地域との交流も盛んに行われていたがコロナ禍により現在は中断せざるを得ない状況の中、民生委員を通して日頃より地域の情報を貰うなど協力・連携を図っています。利用者は制約があるなかでも職員に見守られ毎日運動や家事手伝い、手作業に取り組み機能維持に努め、手作りの美味しい食事を楽しみに元気に暮らしています。職員は理念を大切に研鑽に励み、利用者の尊厳を大事にした支援を行っている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己 外 部	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念を毎朝唱和している。掲げる事だけでなく唱和する事で自身を振り返る機会を設けており、必要であれば面談等を実施している。	開設以来からの理念を大事にしており、朝礼時に唱和し振り返りながら話し合いも継続している。職員は行動指針からそれぞれの自己目標を定め評価を受けており、一連の取り組みは人事考課にも繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方の理解を得られるように、地区だよりや民生委員への報告にて施設の入居状況・空き情報を発信している。	コロナ禍により地域との交流が難しいため、管理者は事業所からの情報発信に力を入れている。民生委員が交代になったが引き続き継続した支援が受けられており、双方向なやり取りを大事に地域との繋がりがとぎれないように取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の内容を含め現状抱えている問題などを書面にて民生委員に提出している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政町民課等よりアドバイスや情報を頂き実践したり、御家族様に意見をいただける機会を設け実施している。	新型コロナウイルス感染症により直接集まることができず、書面での報告となっている。家族等には郵送し、町内会代表者には民生委員が配布してくれている。家族等からは面会がいつでもできるかという要望があり、遠方の家族には陰性証明を持参してもらい実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町行政の担当者に活動内容を共有している。また、地域包括支援センターに協力を仰ぎながら入居から現状の生活状態を報告し携わりを保っている。	町役場とはメールや電話でやり取りし情報を得ている。電気代高騰につき町から補助金が貰えることになっている。コロナ感染症対策として抗原検査キットが配布になり、職員はいつでも検査・確認が出来るよう取り組んでいる。地域包括支援センターとは入居者情報等を常に開示し連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>身体拘束の取り組みの理解として内部研修を実施している。不穏時や外出の希望があった際は不安を落ち着かせる様な役割活動等を取組みながら拘束をしない工夫を実施している。</p>	<p>身体拘束廃止に関する指針を定め、その中に理念・基本方針を示している。職員は教育・研修で身体拘束等の適正化について学び、また事例検討もしながら全職員で共有している。センサーマット使用者については毎月一回現状把握して、可否について検討・見直しを図っている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待にならない為の研修会を実施、虐待の種類や事例検討にて、再認識し職員の意見や想いを聞く機会を設け注意喚起している。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見人制度の理解深め、必要な時に活用できるように関係者との情報交換を実施している。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には時間を設け重要事項説明書で十分な説明のもとに同意して頂いている。疑問点などがあれば都度電話や面会時に説明を実施している。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>御家族様にはもも太郎さん便りを発行し要望や意見を募り都度対応。施設外の意見や要望があった時は民生委員の方に伝達して対応している。</p>	<p>コロナ禍により家族等との面会もままならず直接意見を聞く機会が少ないため、毎月「もも太郎さん便り」に担当者が近況と写真で暮らしの様子を知らせ、安心して貰えるよう取り組んでいる。利用者からは意見や要望が出にくいので職員から声がけし些細なことにも耳を傾けて意思を確認し支援している。</p>		
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回の職員会議や年2回不定期で都度実施している面談を通じて職員の意見や要望を伝える機会があり、可能な限り反映されている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課にて個人面談を実施し職員の意向や考えを把握している。職場環境に配慮し職員一人一人が向上心をもって働ける体制が整っている。		
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が研修の目標を掲げている。外部の研修には率先して参加しその報告を復命書にて記録に残し、他職員が閲覧し伝達研修として共有をしている。	年間行事の中に教育委員会必須研修があり、職員はそれぞれのテーマに沿って学び質の向上を図っている。コロナ感染症の状況を見て外部から講師を招き研修を実施している。看護師が入社した事で利用者の健康管理面で専門的知見をもらえ安心に繋がっている。また新卒者が採用になり事業所に活気が生まれ、研修・指導に関わることで共にスキルアップを目指している。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人でお互い意見交換をする際(会議や委員会)で共有し良い所は取り入れ実践に繋げている。	外部の同業者との交流が難しい状況にあるため、現在は教育委員からテーマが示されオンラインによる研修を会社全体で実施している。管理者は地域内のグループホームと電話やメール等で情報交換等をしている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様がリラックスできる時間の中で対話し要望等を伺い安心した生活ができるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約の時点で不安や要望を伺いしアセスメントしている。金銭面を含む心配事や精神面からの不安を出来るだけ軽減されるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約しても状況の変化にて他のサービス利用も検討している。できる限り要望に沿った支援ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ケアをさせて頂いている心構えのもと、日常生活において利用者様のもっている残存機能・能力など様々な知恵を引きだせるような支援を常に心掛けている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の様子等をもも太郎さん便りで近況報告を行っている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様や御家族からのアセスメントを活用し思い出のある馴染みの物や写真を持参していただき関係を保っている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク活動もなかなか実施できず居室での生活も多くなっている為、利用者同士の関わり合いは難しい状態になっている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了した御家族でも入居された時に撮影してある写真などをアルバムにして持参し関係を保ち支援実施している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の言動等で希望や想いを把握し職員間で情報を共有し実践している。	家族等や利用者からは入居時のアセスメント（情報収集）で把握し、入居後は主にプラン作成時に意見や要望を聞いている。言葉で伝える事が難しい利用者は表情から伺い思いの把握に努めている。毎日の暮らしの中で一番関心がある食事は好みを聞きながら手作りにこだわって満足して貰えるよう取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様のペースに合わせた生活をして頂いている。不明な点があれば御家族様に確認し把握している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の顔の表情や顔色等、会話をしながら異変が無いか観察している。バイタルで異常があれば看護師にて再測定を実施している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様と職員がゆっくり対話し、御家族様の意見も交え希望等、様々な角度からの視点で利用者様に合ったケアを探るようにし、無理の無いようにプランに盛り込んでいる。	プラン作成は1ヶ月ごと観察・記録し、3ヶ月目に総合的に評価を行い次の計画に反映させている。利用者や家族の意見に相違ある時はよく見極めて話し合い、継続して出来ることを大事にして、やり切ってから新しいステップに進めるようなプランになっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	御利用者様の日常での出来事をケース記録に記載し、変化があれば連絡ノートにて職員間の連携を図り統一ケアに役立てています。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域・御家族様の災害時の協力体制が整っており、地域との協働ができている。また、利用者様の持っている知識・知恵を発揮できるような場面を設けている。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診を中心にまた、他医療機関との連携を図り適切な医療を受けられるよう支援している。往診時は往診前に看護師より情報提供をしている。	ほとんどの利用者は往診してくれる協力医をかかりつけ医とし、事前に看護師が健康チェックした「利用者の情報について」を提供して適切な診療に繋げている。診察時は看護師も立会い、状態の変化や薬の変更などあれば家族等にすぐ連絡をとり、また協力医とは緊急時にいつでも連絡・指示を受けられる態勢をとっている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師より、協力医療機関のDrとの緊急の連絡は可能となっており迅速な対応ができる体制になっている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は、担当職員だけではなく利用者様の不安を軽減する為に、面会なども実施している。病院でのカンファレンスを実施するなど、御家族様との情報交換をしている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取りの指針はないものの、入居時の契約の際、重度化した場合や終末期のあり方について都度カンファレンス実施している。必要であれば主治医の協力も得られるようになっている。</p>	<p>入居時、事業所対応について説明し利用者・家族等の理解を得ている。看取りは行っていないため、食事が摂れない・体重の減少などを重度化の目安とし、状態の変化に応じて医師の判断を踏まえ家族等と入院・他施設への転移等を考慮しながら話し合いを持っている。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的避難訓練を実施、その際に通報訓練や職員招集のシミュレーション等迅速な対応ができるよう実践している。</p>			
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害があった際に対応できるように備蓄倉庫にて必要な物品を揃えている。また地域への協力体制も民生委員を通じて協力をお願いしている。</p>	<p>年2回の避難訓練、毎月行っている通報や初期消火のミニ訓練を通して日頃より職員の防災意識を高めている。実施後の反省点・課題を全員で共有し、どうすれば素早い避難誘導や利用者の安全確保出来るかを確認している。また地域との協力体制を築き、備蓄等も備えている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者様の思いを十分に視聴し、理解したうえで本人様の尊厳を守るよう、さりげない言葉掛けやフォローを実施している。また、他利用者様に及ぼす影響を考慮しつつ、自尊心を傷つけない対応策を話し合っており、統一したケアを実践している。</p>	<p>入居時に聞きとった生活歴・環境、出来ることや意向、ホームでの暮らしの中での気づきを共有し、人生の先輩として誇りや人格を尊重しながら言葉がけや介助を行っている。職員全員で羞恥心への配慮やプライバシーを確保した支援を行っている。</p>		
36		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>利用者様の希望を傾聴し自己決定できる選択肢を提供している。意思表示が難しい利用者様に関しても好みや特性を把握し希望に少しでも寄り添えるよう心掛けている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で一人一人の生活パターンを理解し安全を確保しながら希望に添った支援に心掛けている。申し送りノートの活用し気づきなどを記入して共有している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の希望に合わせた衣類選びに心掛けている。また、定期的に散髪を行っておりその方らしいおしゃれが出来るよう支援している。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合ったメニューを取り入れ四季折々の食事を楽しんで頂いている。食事後の後片づけを分担して行い利用者様の出来る範囲で活躍の場を提供している。	「利用者の毎日の楽しみは食事」そのことを念頭に職員がメニューを考え季節の食材を取り入れ、ホール入口に「本日のメニュー」を掲げて利用者に満足してもらえるよう手作りの食事を提供している。利用者から旬の食べ物や作り方を聞き、また毎日の仕事として後片付けなどを手伝ってもらっている。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の状態を把握したうえでカロリーの過不足、栄養の偏り水分不足が起こらないよう努めている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が介助を必要とする利用者様には、毎食後の口腔ケアの徹底し、義歯洗浄を行っている。ご自分で管理している利用者様でも一部声掛け、必要であれば歯科往診も行っている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様の排泄パターンを排泄記録に記録し、できる限りトイレでの排泄になるよう表情などの変化や動作で読み取り声掛け誘導を実施している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し時間や活動前後などに声がけてトイレ誘導し、見守りや介助を通してトイレでの排泄自立に繋げている。おむつやパット利用の方でもいつも清潔さを保ちながら生活出来るよう配慮している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて把握し主治医より助言を頂き、下剤等の処方し排便コントロールをしている。また、食事のメニューに食物繊維の多い食材・飲料で工夫を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	何時でも入浴可能であり、入浴拒否が聞かれた場合は、心地よく入浴して頂けるように無理な声掛けはせず、清拭・更衣を実施し清潔保ちながら強制的にならないように配慮している。	希望は午後に集中しているが週3回を目安に入浴し、毎日でも可能としている。バイタルチェックや1対1の介助で身体状況の確認や安全対策をとりながら気持ち良く入ってもらい、清潔を保てるようにしている。嫌がる方には無理強いせず清拭対応とすることもある。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動的な生活を送る事で、安眠に繋げている。睡眠チェックを用いて一人一人の睡眠パターンを把握している。疲労や眠気が見られた場合は休息をとって頂けるよう配慮している。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は全て施設にて管理を行い職員全員が個人ファイルにて薬の効能を確認できる様になっている。また服薬のマニュアルを作成し誤薬ミスを防いでいます。		
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴を把握し特技や好きな事を見出し生活での役割分担をし活気ある生活して頂いている。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現時点での外出の対応は困難となっており希望も叶えられない状態にある。時折、状況判断し玄関ポーチ等を利用し換気の十分な状況を確認し支援している。	コロナ禍により感染防止のため外出行事はすべて中止している。天気の良い日に玄関前での外気浴やトランプ・カルタ取りなど利用者が楽しみにしているレクリエーション活動を取り入れ、気分転換を図っている。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様一人一人の状態に応じて所持して頂いています。金銭管理が困難な利用者様には施設での立替えにて対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様からご家族様への伝達方法として手紙のやり取りを好んでいる方がおり、封筒や切手の手配などで外に行ける機会がない方の支援をしている。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が共同で作成したカレンダーなど季節にあった写真・装飾を飾り家庭的な雰囲気を作っている。 創作活動など感染症の対策を講じて季節感を取り入れながら配慮をし居心地のよい環境を保っている。	ホールや廊下は落ち着いた雰囲気づくりを心がけ、季節の花や写真・装飾に囲まれた中で新聞を読んだりテレビを見たりしながら思い思いに寛げるスペースとなっている。 ホーム内の消毒・換気、職員の体温測定・手洗い・うがいの励行や週2回抗原検査を実施するなど感染症対策を徹底して行っている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは、新聞を読んだりテレビ鑑賞をしたり思い思いに寛げる環境がある。畳の空間もあり自由に利用されている。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様ご自身で自分の物と認識している衣類・家具等を居室に持ってきて頂いている。また、馴染みの物や思い出に残っている写真等を飾って心地よく生活ができるよう工夫している。	家具や馴染みの物、衣類などを持ち込み自宅と同じような生活ができるよう一人ひとりに合わせた住み心地の良い部屋作りをしている。立ち上がりに不安がある方には家族等の理解を得てセンサーマットを設置し、車椅子利用者や歩行に不安ある方にはつまずきや転倒がないようベッドや椅子の配置替えて動線を確認し安全に暮らせるようにしている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の心身の状態を把握しており、自立した日常生活が出来るよう個々の能力に応じた声掛けを実施している。			